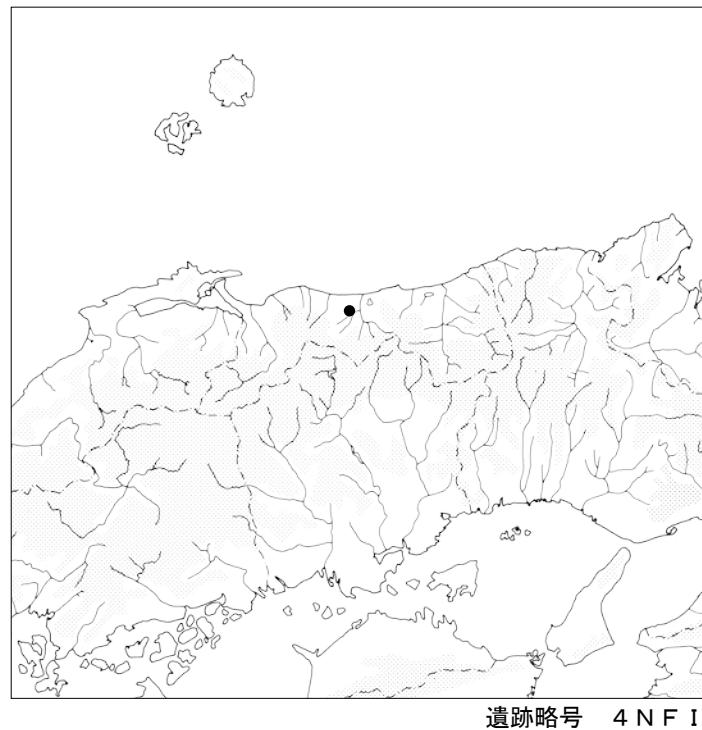


# 不入岡遺跡群（壹本榎地区）発掘調査報告書

令和 2 年度

倉吉市教育委員会

ふ に おか  
不入岡遺跡群（壹本榎地区）発掘調査報告書  
いっ ほん えのき



令和 2 年度

倉吉市教育委員会

# 序

この報告書は、農業用倉庫新設工事に伴い、令和2年度に鳥取県倉吉市不入岡字壱本榎において行った、埋蔵文化財の発掘調査記録です。

今回の発掘調査では、古墳時代の竪穴建物1棟、時期不明の土壙1基等が確認されました。

今回は開発に掛かる建物基礎掘方の限られた部分の調査ではありましたが、地域の歴史の解明、あるいは教育・研究の一資料として、また文化財の理解・活用のためお役に立てば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査に際し多大なご協力をいただきました株式会社GOTO・FARM、地元関係者ならびに関係機関各位に深く感謝の意を表する次第です。

令和3年3月

倉吉市教育委員会  
教育長 小椋 博幸

## 例　　言

- 1 本報告書は、農業用倉庫新設に伴う事前調査として、令和2年度に倉吉市教育委員会が株式会社GOTO・FARMから委託を受け、鳥取県倉吉市不入岡字壱本榎において実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。
- 2 調査組織は次のとおりである。

調査主体 倉吉市教育委員会

事務局 倉吉市教育委員会事務局文化財課

　　小椋 博幸（教育長）　　　　　　山中 敏幸（事務局長）

　　藤井 貴男（文化財課課長）　　　岡本 智則（課長補佐兼文化財係係長）

　　加藤 誠司（文化財係主幹）　　　箕田 拓郎（文化財係主任）

　　山増諭美子（文化財係主任）　　　田中 貴志（文化財係主任）

　　小田 芳弘（文化財係兼博物館主任学芸員）

　　片岡 啓介（文化財係学芸員）

　　出口 亜美（文化財係主事）　　　　西浦 千賀（文化財係主事）

　　根鈴智津子（専門員）　　　　　　進木 和美（発掘調査補助員）

　　猪口亜也子（事務員）　　　　　　松原 雄二（建築技師）

内務整理 秋元 葉子・足羽由里香・谷口 公也・徳田 郁美・山松 紀文

- 3 現地調査は小田・西浦が担当し、進木の補助を受けた。本書の執筆は西浦が担当した。

- 4 第1図は、国土地理院発行の1:25,000地形図「倉吉」の一部に加筆したものである。第2図は平成8年修正測量の1:2,500国土基本図を元に加筆したものである。

- 5 挿図中の方位及び座標値は国土座標第V座標系（世界測地系）の北を指す。第2図については国土座標第V座標系（日本測地系）の北を指す。

- 6 遺物に付した記号・番号は、本文・挿図・図版で統一した。

- 7 調査によって得られた資料は、倉吉市教育委員会が保管している。

## 本文目次

I	発掘調査に至る経過	1
II	位置と歴史的環境	1
III	調査の概要	5
1	遺構	5
2	遺物	6
IV	まとめ	7
報告書抄録		

## 挿図目次

第1図	倉吉市周辺の地形と遺跡分布図	2
第2図	調査区位置図	3
第3図	遺構全体図	4
第4図	1号竪穴建物遺構図	5
第5図	1号土壙遺構図	6
第6図	出土遺物	6

## 図版目次

図版1	調査前全景・調査後全景
図版2	調査区周辺
図版3	1号竪穴建物検出・1号竪穴建物完掘・1号竪穴建物ピット断面
図版4	1号土壙断面・1号土壙完掘・G1完掘・G6完掘・G9完掘
図版5	G12完掘・G13完掘・出土遺物

## I 発掘調査に至る経過

令和元年9月に農業用倉庫新設に関して埋蔵文化財包蔵地確認の照会があった。周辺には国史跡伯耆国府跡不入岡遺跡や市史跡国分寺古墳がある。現地を踏査した結果、土器片の散布が認められたため、試掘調査を行った。試掘調査は令和2年2月26日から令和2年3月7日まで実施して、柱穴を複数基確認し、8世紀代の奈良甕片が出土した。遺跡の取り扱いを協議した結果、遺構が掘削される基礎掘方部分について発掘調査を実施することとなった。現地調査期間は令和2年8月18日から令和2年9月23日まで、調査面積は83m<sup>2</sup>である。

### 参考文献

森下哲哉「14 不入岡地区（不入岡遺跡群）」『倉吉市内遺跡分布調査報告書VII』倉吉市教育委員会 1993年

片岡啓介「11 不入岡A地区（不入岡遺跡群（壱本榎地区））」『倉吉市内遺跡分布調査報告書21』倉吉市教育委員会 2021年

## II 位置と歴史的環境

不入岡遺跡群（壱本榎地区）は、倉吉市街地から北西に約2.5km離れた倉吉市不入岡字壱本榎に所在し、調査地は不入岡遺跡の西側に隣接する。調査地が位置する倉吉市西郊には、大山の火山活動によって形成された火山灰台地の久米ヶ原丘陵が穏やかな起伏をもって連なり、東側に小鴨川の支流国府川が形成した狭い沖積平野が広がる。

以下、第1図の範囲を中心に古墳時代以降の主な遺跡について述べる。

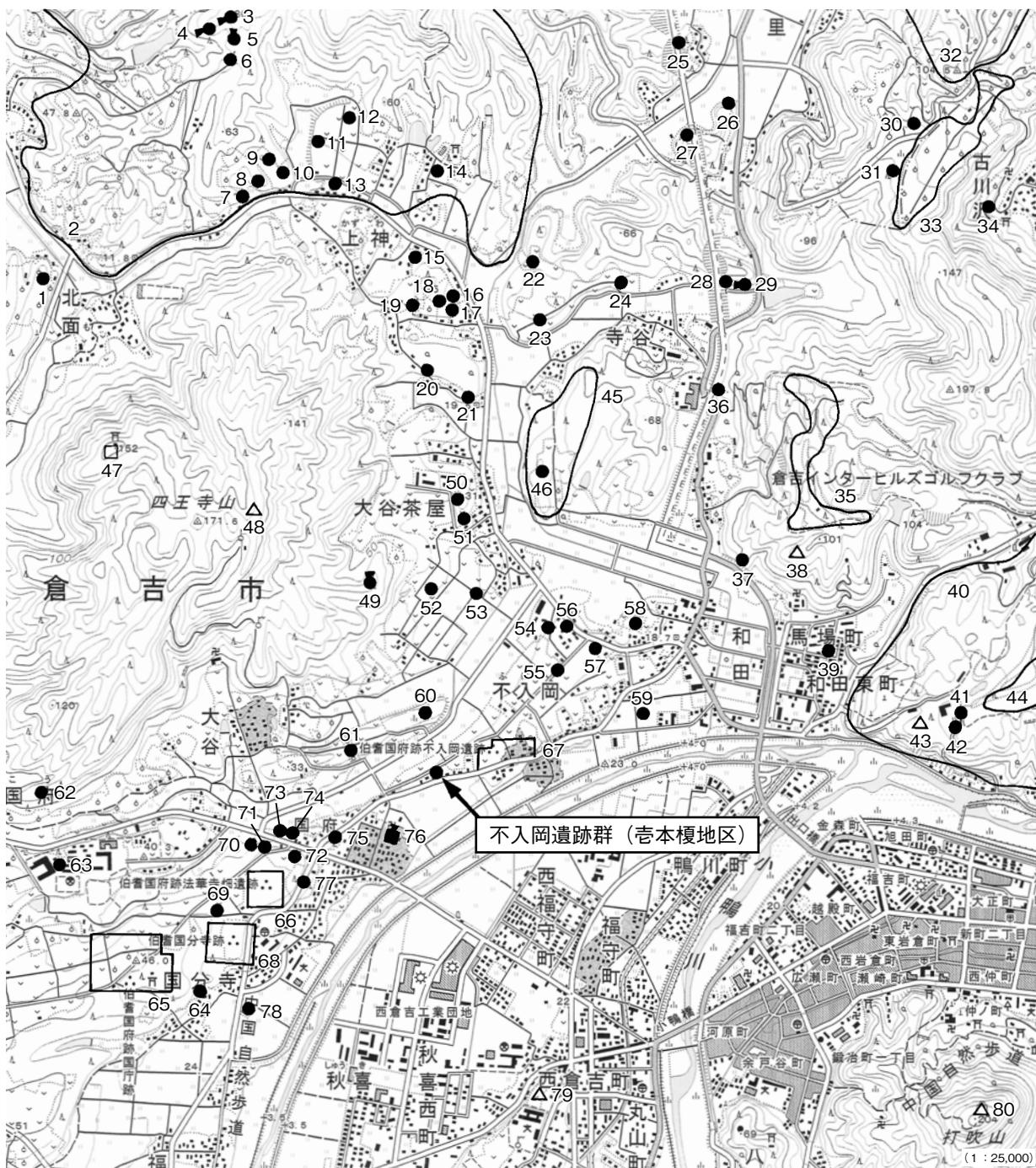
古墳時代については擲塚遺跡(75)、宮ノ下遺跡(77)で古墳時代前期の集落が調査されている。古墳時代中期(5世紀中頃)には不入岡遺跡(67)で造り付け竈をもつ朝鮮半島の床暖房施設として知られるオンドルを有した方形堅穴建物を確認しており、在地系の遺物と併せて筒形土器などの渡来系土器が出土した(県指定保護文化財)。夏谷遺跡(35)、西前遺跡(23)において弥生時代から続く古墳時代後期までの集落が確認されている。

前期古墳は瓊鳳鏡・三角縁神獸鏡・二神二獸鏡の舶載鏡3面と多量の鉄器が出土した国分寺古墳(75)、四王寺山東麓には彷彿三角縁神獸鏡・変形六獸鏡・碧玉製鍬形石・碧玉製琴柱形石製品が出土した上神大将塚古墳(20)・大谷大将塚古墳(49)などが知られている。5世紀代には沢ベリ遺跡2次調査(55)で帆立貝式古墳や前方後円墳計6基を含む19基の古墳群を確認しており、墓道が復元できたほか、鹿皮模様を施した人物埴輪が出土している。4次調査(57)ではさらに古墳6基を確認した。その他イザ原古墳群(51)、小林古墳群(52)などがあり、後期には向山、大平山、上神地区周辺の丘陵に群集墳が多く造られる。終末期の古墳では取木遺跡、一反半田遺跡、両長谷遺跡などがある。

奈良時代には伯耆国府跡(65)、伯耆国分寺跡(68)、大規模な官衙がのちに国分尼寺として利用された法華寺畠遺跡(66)がある。不入岡遺跡では、7世紀後半から10世紀代の遺構として多くの掘立柱建物跡などが確認されており、8世紀前半に伯耆国府に先行する官衙として造られ、8世紀後半以降10世紀までは伯耆国管轄の倉庫群が建ち並んでいたと考えられる。

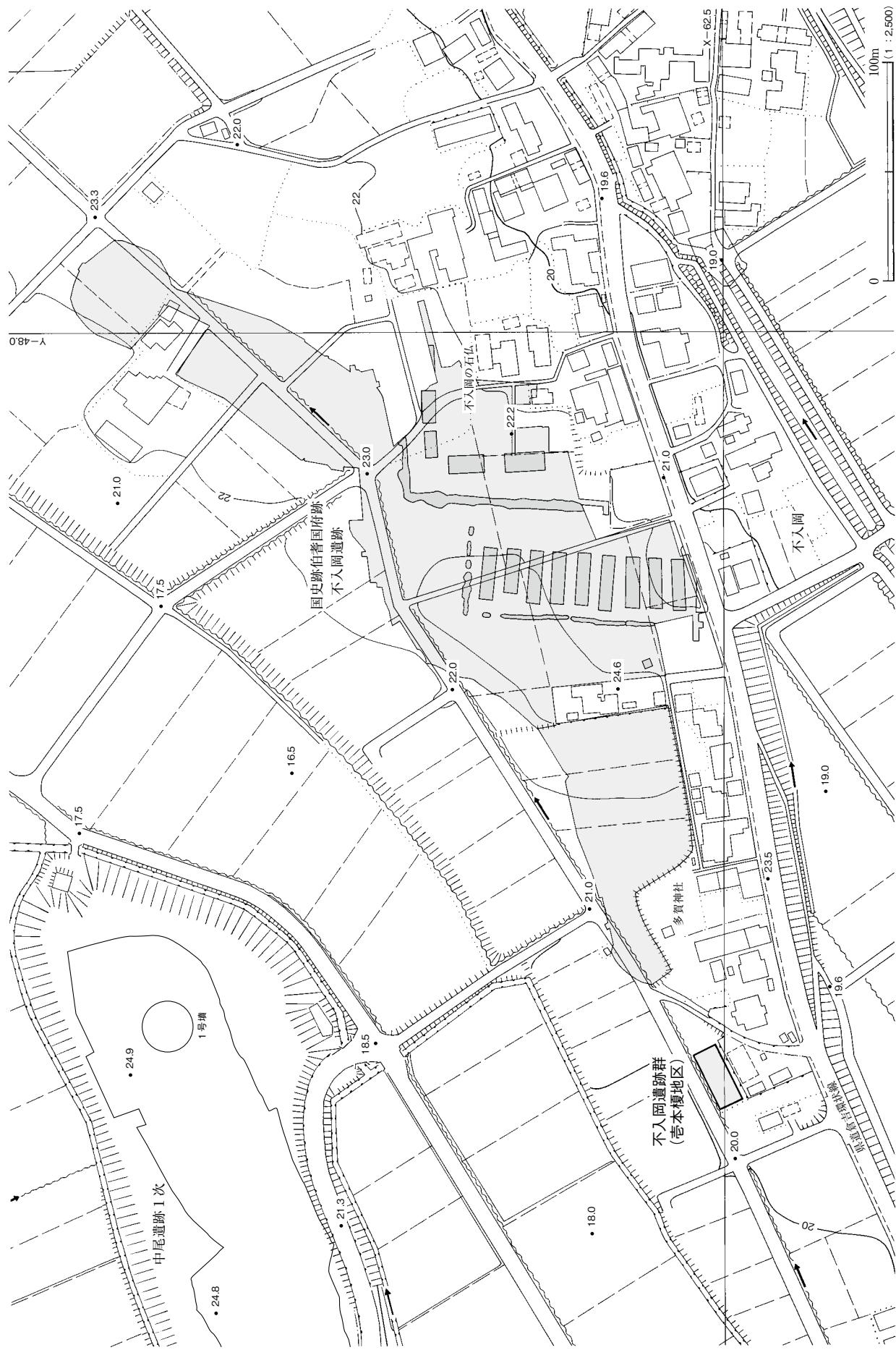
中世では不入岡遺跡において中世墓が13基が確認されている。また不入岡地区には「永和元乙卯(1375)年」銘のある「不入岡の石仏」(県指定保護文化財)(第2図)がある。

1 イキス遺跡	4 上神45号墳	7 上神119号墳	10 イガミ松遺跡	13 桜木遺跡
2 上神古墳群	5 上神48号墳	8 クズマ遺跡1次	11 西山遺跡	14 上神宮ノ前遺跡
3 上神44号墳	6 上神51号墳	9 クズマ遺跡2次	12 谷畠遺跡	15 東狭間遺跡

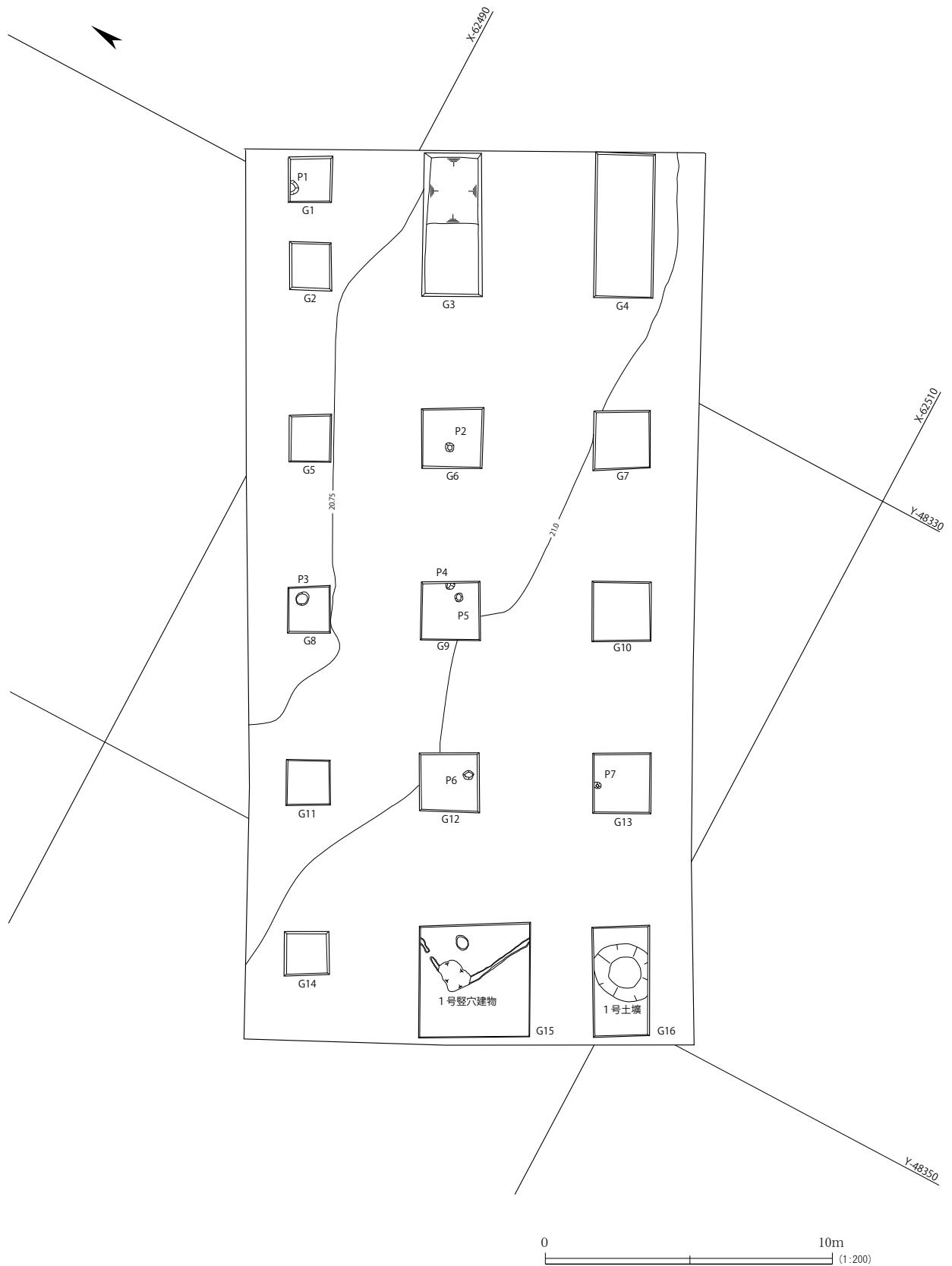


第1図 倉吉市周辺の地形と遺跡分布図

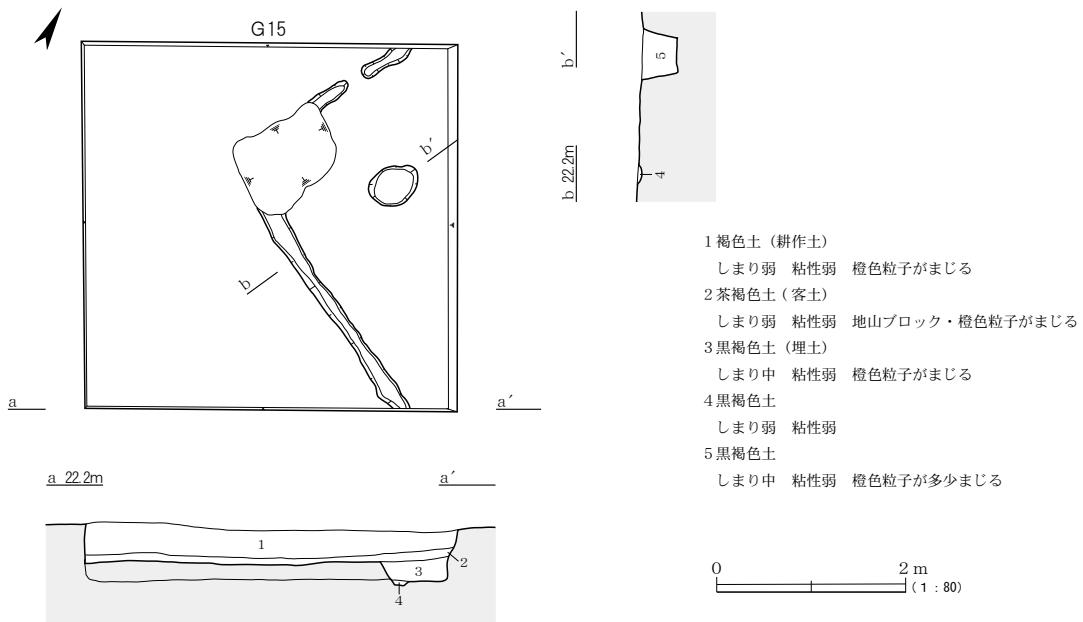
16 猫山遺跡 1次	29 若林2号墳	42 向山310号墳	56 沢ベリ遺跡 3次	70 伯耆国府関連遺跡
17 猫山遺跡 2次	30 米里第1遺跡	43 和田東城跡	57 沢ベリ遺跡 4次	(古神宮地区第1次)
18 猫山遺跡 3次	31 米里第2遺跡	44 長谷遺跡	58 茅林遺跡	71 伯耆国府関連遺跡
19 猫山遺跡 4次	32 土上古墳群	45 屋喜山古墳群	59 東前遺跡	(古神宮地区第2次)
20 上神大将塚古墳	33 下張坪遺跡	46 屋喜山9号墳	60 中尾遺跡 1次	72 伯耆国府関連遺跡
21 柴栗古墳群	34 西平遺跡	47 四王寺跡	61 中尾遺跡 2次	(古神宮地区第3次)
22 トドロケ遺跡	35 夏谷遺跡	48 大谷城跡	62 大谷後口谷墳丘墓群	73 古神宮古墓
23 西前遺跡	36 大平ラ遺跡	49 大谷大将塚古墳	63 向野遺跡	74 打塚遺跡
24 西前1号墳	37 中峰古墳群	50 三度舞墳丘墓	64 国分寺宮ノ峰遺跡	75 擬塚遺跡
25 米里三ノ寄遺跡	38 和田城跡	51 イザ原古墳群	65 伯耆国府跡伯耆国序跡	76 国分寺古墳
26 米里銅鐸出土地	39 平ル林遺跡	52 小林古墳群	66 伯耆国府跡法華寺畠遺跡	77 宮ノ下遺跡
27 八幡山遺跡	40 向山古墳群	53 イザ原古墳群	67 伯耆国府跡不入岡遺跡	78 河原毛田遺跡
28 若林遺跡	41 向山309号墳	54 沢ベリ遺跡 1次	68 伯耆国分寺跡	79 北の城跡
		55 沢ベリ遺跡 2次	69 国分寺北遺跡	80 打吹城跡



第2図 調査区位置図



第3図 遺構全体図



第4図 1号竖穴建物遺構図

### III 調査の概要

発掘調査は調査地内の農業倉庫基礎掘方部分にグリッドを16カ所（以下G 1～G 16と表記）設定し、計83m<sup>2</sup>で実施した。調査地は耕作土の下層に圃場整備のものと思われる客土が堆積しており、その下層で攪乱や重機掘削の跡が見られた。以上を踏まえてこの遺跡の基本的層序は、上から①耕作土、②客土、③黒色土（遺物包含層）、④茶褐色土（ソフトローム層）、⑤黄灰色砂質土（ホーキ火山砂層）、⑥黄褐色砂質土（AT：始良丹沢火山灰層）、⑦橙褐色粘質土（礫混じり粘質土層）、⑧黄褐色土（D.K.P.：大山・倉吉軽石層）である。遺構検出は④茶褐色土（ソフトローム層）上面で行った。調査の結果、竖穴建物1棟、土壙1基、ピット7穴を確認した。

## 1 遺構

### 1号竖穴建物

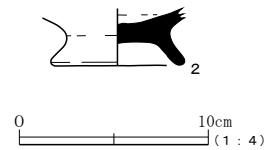
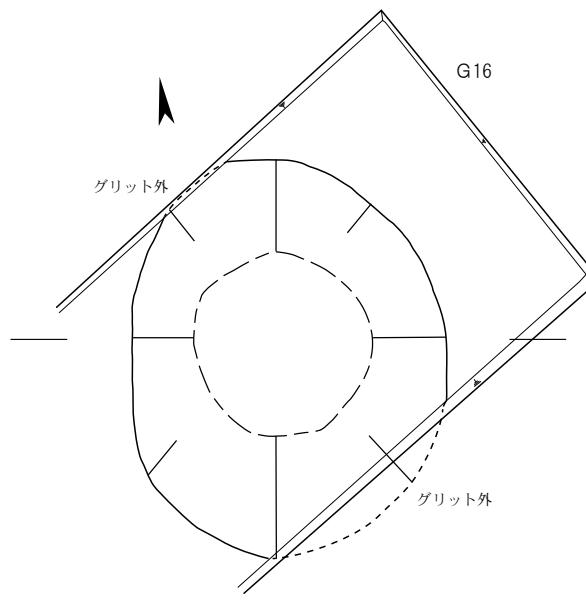
G 15で、竖穴建物の一部をソフトローム層上面にて検出した。平面形は方形で、1辺約5m以下と推定される。検出面から床面までの深さは、グリッドの断面観察から、約0.2mを確認した。床面で周壁溝の一部とピット1穴を確認した。確認できた周壁溝の長さは、西辺で1.2m、南辺で2.4mである。ピットの規模は、直径約0.5m、深さ約0.37m。西辺周壁溝埋土から土師器甕（1）の破片が1点出土した。

### 1号土壙

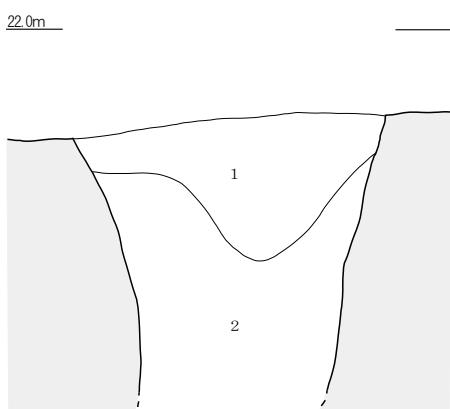
G 16で検出。土壙の平面形は橢円形で、長軸は2.3m以上、短軸は1.6m、検出面から水面までの深さ1.6mである。断面形はすり鉢形。検出面から1.6m掘り下げたところで湧水があり、安全性を考慮し底面までの掘り下げは実施しなかった。遺物は埋土第1層から土師器高台付壺、磁器、第2層から土師器、須恵器、陶器などが出土した。

### ピット

G 1でP 1、G 6でP 2、G 8でP 3、G 9でP 4とP 5、G 12でP 6、G 13でP 7を確認した。ピット内から遺物の出土はなし。



第6図 出土遺物



1 黒褐色土 しまり中 粘性弱  
地山ブロックがまじる  
2 茶褐色土 しまり中 粘性弱  
橙色粒子、地山ブロックが多くまじる

0 1m (1:40)

第5図 1号土壙遺構図

## 2 遺物

### 1号竪穴建物

土師器甕 (1) 肩部の破片。肩部外面にハケ目が見られ、ナデ消しされている。外面に煤が付着している。内面は丁寧な横方向のヘラ削り。胎土に2mm以下の砂粒を含む。焼成不良。色調にぶい黄橙色。1号竪穴建物周壁溝から出土。

### 1号土壙

土師器高台付壺 (2) 高台部から底部にかけての破片。脚部直径は7cm。口径などは不明。高台の高さは1.2cm。壺部外面にわずかにヘラ削りの痕が残る。胎土に1mm以下の砂粒を含む。焼成良好。色調橙色。第1層から出土。

須恵器壺 (3) 底部から体部にかけての破片。底面に糸切り痕を残す。焼成良好。色調青灰色。第2層から出土。

### 遺構外

土師器甕 (4) 口縁部の1/6破片。口縁部は薄手で、比較的長く緩やかに外反する。口縁部には成形時の指頭圧痕が残る。外面には縦向きにハケ目が確認でき、煤が付着している。胎土には1mm以下の砂粒を含む。焼成普通。色調浅黄橙色。G3黒色土(遺物包含層)から出土。

奈良甕 (5) 頸部から体部にかけての破片。焼成普通。色調にぶい褐色。試掘T2黒色土(遺物包含層)から出土。

瓦質土器鍋 (6) 口縁部から肩部にかけての破片。口縁部は直立する。焼成良好。色調にぶい橙色。試掘T1耕作土から出土。

## IV まとめ

今回の調査では竪穴建物 1 棟、土壙 1 基、ピット 7 穴を確認した。倉庫基礎堀方部分にグリッドを設定する形で調査を行ったため、調査面積が限られ、遺構全体を確認することができなかった。

1 号竪穴建物については出土した土師器甕（1）より、古墳時代前期の竪穴建物と考えられる。周辺では当遺跡より南西に約 500 m の位置に擲塚遺跡<sup>1)</sup>、南西に約 700m の位置に所在する宮ノ下遺跡<sup>2)</sup>において古墳時代前期の集落が確認されており、古墳時代前期の集落が丘陵南側に広がることが想定される。

1 号土壙については底面までは確認ができないが、湧水があったことから素掘り井戸の可能性が考えられる。第 2 層目からは 10 世紀代の須恵器坏（3）が出土しているほか、その他時期不明の陶器が出土しており、近代の可能性がある。

今回は井戸と思われる土壙を確認したが、鳥取県内で見ると弥生時代後期後半の木製井戸枠を持つ井戸が確認された秋里遺跡や、通路と思われる溝が付属した浜井戸が確認されている長瀬高浜遺跡などがある<sup>3)</sup>。そのほか鳥取城跡や米子城跡において複数確認されているなど、弥生時代以降の井戸が県内では数多く確認されている。一方で倉吉市では、現在までに大御堂廃寺跡<sup>4)</sup>、下前田遺跡<sup>5)</sup>、今倉遺跡<sup>6)</sup>で井戸が確認されており、大御堂廃寺跡では 8 世紀前半の溜枡、下前田遺跡では 13 世紀から 14 世紀にかけての井戸と思われる土壙 2 基、今倉遺跡では 15 世紀から 16 世紀にかけての井戸が 2 基確認されている。倉吉市内での井戸の発見数は少なく、今回が 6 例目になる。

遺構外からは 8 世紀代の奈良甕、耕作土より 13 ~ 14 世紀代の瓦質土器鍋が出土している。隣接している不入岡遺跡では奈良時代以降に掘立柱建物、中世墓などの遺構が確認されているほか、不入岡遺跡と沢ベリ遺跡で瓦質土器の鍋、羽釜が出土しており当調査地との関連が伺われる。

### 註

- 1 日野琢郎『擲塚遺跡発掘調査報告書』倉吉市教育委員会 1982 年
- 2 名越勉他『宮ノ下遺跡発掘調査報告書』倉吉市教育委員会 1976 年
- 3 高橋章司他『秋里遺跡（松下地区）』鳥取県埋蔵文化財センター 2018 年
- 4 真田廣幸他『史跡 大御堂廃寺跡発掘調査報告書』倉吉市教育委員会 2001 年
- 5 岡平拓也『下前田遺跡発掘調査報告書』倉吉市教育委員会 2003 年
- 6 真田廣幸『今倉城跡・今倉遺跡発掘調査報告書』倉吉市教育委員会 1982 年

### 参考文献

- 八嶋 興 「山陰における中世土器の変遷について」 日本中世土器研究会編『中近世土器の基礎的研究Ⅷ』 1998 年



調査前全景(北東から)



調査後全景(北東から)

図版2



調査区周辺（北東から）右奥に中尾遺跡



調査区周辺（南西から）奥に向山



1号堅穴建物検出（南西から）



1号堅穴建物完掘（南西から）



1号堅穴建物ピット断面（北から）

図版 4



1号土壌断面（北から）



G 1 完掘（北東から）



1号土壌完掘（北東から）



G 6 完掘（北東から）



G 9 完掘(南西から)



G 12 完掘 (北東から)



G 13 完掘 (北東から)



1

2

3

4

5

6

出土遺物

## 報告書抄録

---

## 不入岡遺跡群（壱本榎地区）発掘調査報告書

令和3年3月31日 印刷  
令和3年3月31日 発行

編集 倉吉市教育委員会  
発行

印刷 勝美印刷株式会社  
製本

---